

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	高知県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	高知市立第四小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	1	1	4	14	23
児童数	79	50	58	47	33	35	4	306	

研究の概要

1. 研究主題

自ら学ぶ意欲をもち、いきいきと課題を解決できる児童の育成 子どもの学びが育つカリキュラムづくり
--

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

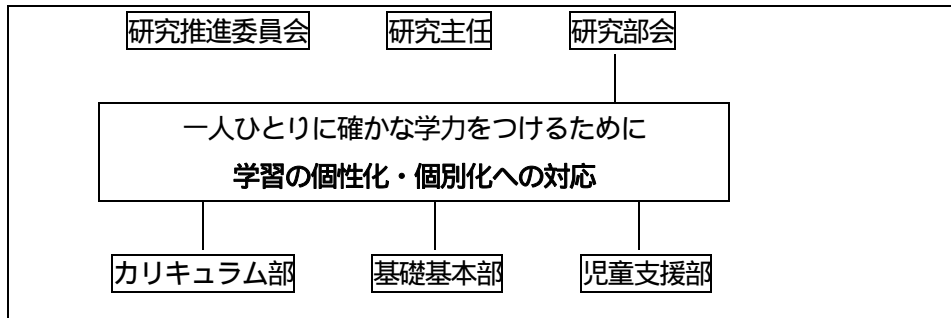
1～6年生・算数 レベルアップタイムの実施 (月曜日の朝自習の15分間と金曜日の6時間目30分間) 1・3・4年生・算数 少人数指導 1年生は1クラス39名の2クラスであり、一人ひとりに操作・活動を通して理解させることが難しいため 3・4年生は児童の理解の状況に差が出やすい学年・教科であるため 1年生・国語 TT指導 1年生は1クラス39名の2クラスであり、一人ひとりに基礎・基本の定着をさせることが難しいため 全学年・生活科・総合的な学習の時間 TTで行い、子ども一人ひとりの問題解決学習を支援するため 2・3年 算数・国語 その子のニーズにあった学習を個別支援計画に基づいて行うため 放課後、子どもの自由意志による学習の支援 ポケモンクラブの開設
--

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 子どもの学びが育つカリキュラムづくり ～ 一人ひとりに確かな学力をつけるために ～</p> <p>研究の見通し(仮説) 子どもの学びが育つには、基礎・基本の定着は不可欠であり、一人ひとりの児童が分かることの楽しさを授業で体感すれば、教育活動全体への興味・関心を広げることにもつながるのではないかと考える。</p> <p>研究の内容・方法 基礎基本の徹底</p> <p>* レベルアップタイムの充実 (月 8:30～8:45 金 15:00～15:30) 習熟プリントの作成, 指導体制の工夫 個に応じた指導のための支援や教材開発を行う</p> <p>* CRT(4・7月実施)や本校独自の「これだけはおさえない・数と計算領域」 診断をテスト年4回(4・7・12・3月)実施</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 分析・手立てを職員会で話し合う</li><li>・ 個人カルテで子どものつまずき・よさを把握し, 指導に役立てる</li><li>・ 個別支援計画を立てる</li></ul> <p>* 個に応じた教材づくりや子どもの興味・関心から単元づくりを行う 教員の指導力向上のための校内研・研修会の実施</p> <p>* 経験単元の授業づくりについての学習会</p> <p>* 算数科少人数指導・発展的・補充指導・評価についての学習会の実施</p> <p>* 事前研・単元検討会・事後研の充実 評価サイクルを確立し, 修正・更新しながら実践し, 学級・学年カリキュラムを学校全体で評価する</p> <p>* 単元が生まれるまで, 計画カリキュラム, 実施カリキュラムを全校で共有する 単元検討会を行う</p> <p>* 子どもにとってどうだったか, 学校カリキュラムとしてどうかを検討し, 修正していく</p> <p>* 研究を外部にひらき, 評価していただく 講師のアドバイスを指導に生かす</p> <p>子どもによる自己評価カードの充実      メタ認知能力の育成</p>
--------	--

平成16年度	<p>子どもの学びが育つカリキュラムづくり</p> <p>～ 一人ひとりに確かな学力をつけるために ～</p> <p>研究の見通し(仮説)</p> <p>前年度の研究の改善点を明らかにして，基礎基本の充実，少人数指導・発展的・補充指導・評価について学習を深めて，さらに子どもの学びが育つカリキュラムづくりをめざしていく</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>基礎基本の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* レベルアップタイムの充実 (月 8:30～8:45 金 15:00～15:30) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 習熟プリントの充実，指導体制の工夫</li> <li>・ 長期休みのプリントつづりの充実</li> </ul> </li> <li>* 読書力をつける <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 朝自習の見直し</li> </ul> </li> </ul> <p>個に応じた指導のための支援や教材開発を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* CRTや本校独自の「数と計算領域」の実施・診断・手立て <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人カルテ・個別支援計画の充実</li> <li>・ 児童支援・個別支援を生かした授業研</li> </ul> </li> <li>* 個に応じた教材づくりや子どもの興味・関心から単元づくりを行う 教員の指導力向上のための校内研・研修会の実施</li> <li>* 経験単元の授業づくりについての学習会</li> <li>* 算数科少人数指導・発展的・補充指導・評価についての学習会の実施</li> <li>* 事前研・単元検討会・事後研の充実</li> </ul> <p>評価サイクルを確立し，修正・更新しながら実践し，学級・学年カリキュラムを学校全体で評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 単元が生まれるまで，計画カリキュラム，実施カリキュラムを全校で共有する単元検討会を行う</li> <li>* 子どもにとってどうだったか，学校カリキュラムとしてどうかを検討し，修正していく</li> <li>* 研究を外部にひらき，評価していただく <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講師のアドバイスを指導に生かす</li> </ul> </li> </ul> <p>子どもによる自己評価カードの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* メタ認知能力の育成</li> </ul> <p>少人数指導の効果的な授業形態の研究を進める</p>
--------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究の成果

基礎基本の徹底において

- \* 個人カルテをつくったり、個別支援計画を立てたりして、子どものよさや躰きに応じた指導を行うことができた。

教員の指導力向上のための校内研・研修会の実施

- \* 購入した参考文献を読み合ったり、自主公開授業を行ったりして、学力向上フロンティア事業・少人数・TTについての学習会を年間6回もつことにより、共通認識をもつことができた。

〔6月4日〕

- ・ 算数科を核とした経験単元づくりの公開授業・講演・単元づくりへのアドバイス  
神奈川県横浜市教育研究所教育課程開発室 齊藤一弥指導主事

〔8月20日〕

- ・ 生活科・総合単元づくりへのアドバイス・検討  
立教大学文学部 奈須正裕教授

〔11月20日〕 フロンティア学習会の実施

- ・ 本校算数科、少人数指導授業へのアドバイス・講演  
愛知教育大学教育学部 志水廣教授

〔2月17日〕

- ・ 今年度実施単元検討会・来年度計画へのアドバイス  
立教大学文学部 奈須正裕教授

実態把握と手立て・方策を共有することができた

【4月実施診断テスト結果の実態把握と分析・これからの手立て】

- ・ 高学年になってくると学力の差が出て厳しくなるので、学年で重点教材を洗い出し、学校として系統的に取り組む必要がある
- ・ 文章題と計算が複雑になると、ミスが多いのが課題
- ・ 領域の弱いところを補うためにどのような手だてを行うかを支援計画に示すことが必要
- ・ 教育的配慮が必要だと思われる子に対する支援のしかたを研究する必要がある。

## 【C R T実施結果の実態把握と分析・これからの手立て】

### 弱点分析

2年 算 「後ろから何番目」

国 書く材料の選択 内容の読み取り 書く能力・読む能力に課題がある

3年 算 数学的な考え方・数直線

4年 算 数学的な考え方

国 読む能力 関心・意欲・態度が低い

5年 算 関心・意欲・態度が低い

数学的な考え方・わり算

6年 算 概数 図形

国 漢字

### 【全校で取り組んでいく課題】

- ・ レベルアップタイムの充実を図る
- ・ T T指導の充実を図る 授業研をして指導形態の工夫を図る
- ・ 文章題ができないのは、算数というより国語の読み取りが課題  
朝自習や国語の授業で音読する機会を増やす

### 【少人数・T T指導の成果】

- ・ その時間に子どもの躓いているところを適切に把握し、適切な指導をすることができるようになった。
- ・ 一人ひとりの子どもに対する理解が深まり、担任と協働して寄り添っていこうという意識が生まれた。
- ・ 単元ごとにT 1・T 2を交代することによって、児童の学習に対する意識や思考などの認識が共有できた。
- ・ 必然的に指導者と学習者や学習者同士の発言回数が多くなり、豊かな学習コミュニケーションが生まれるようになってきた。
- ・ 子ども一人ひとりが自分にあっていると思うコースを選択して学習を進めていくので、個々の学習意欲が高く、積極的な取り組みが生まれ、最後まで粘り強く取り組めるようになってきた。

## 2. 今後の課題

- \* レベルアップや習熟度指導は自己選択にしているため、教師が意図しているのは、違ったコースを選ぶ児童がいる。何を基準に子どもが選んでいるのかを見とる必要がある。

お楽しみタイムとチャレンジタイムをつくる

(児童選択) (教師と相談・計算カードなどの工夫)

- \* 中学校区，地域，保護者への情報公開・提供が十分でない

授業公開や学校便りなどで取り組みを紹介する

- \* 学級数が増え，学習スペースの確保がむずかしくなっている
- \* 放課後の学習の支援などに，保護者やボランティア等に協力してもらえるような体制をつくれぬかと模索中 放課後チューターの活用など
- \* 少人数指導の効果的な指導形態や方法の研究をすすめる
- \* 読解力をつけるため，朝自習の見直しを行う
- \* 児童支援・個別支援を生かした授業を行う

### 学力等把握のための学校としての取組

- \* 2～6年生までに，国語・算数の到達度把握のための検査を実施・分析・手立てを話し合う
- \* 本校独自の「これだけはおさえたい・数と計算領域」診断をテスト年4回（4・7・12・3月）実施し，分析・手立てを話し合う
- \* 確かな学力をつけるために，きめ細かな指導を行うのであり，教科だけでなく，生活科や総合的な学習の時間にも，少人数指導やTT，個別学習は必要である。どの教育活動にも，個性に応えることや個人差に応えることは大切であることを再認識したい。この題材だから，子どもの実態がこうだから，こういうねらいだから，この形態を使うという方法で考えないと，少人数指導，習熟度別といって，子どもの人数を分けること自体が目的になってしまうような「目的」と「方法」とを混同することになりかねない。知識の教え込みではなく，子ども一人ひとりの気づきを生むようなカリキュラムづくり・授業づくりが原点である。

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

本年度の研究のまとめを作成し，中学校区の小学校に配布予定

校内研修会の要項作成し，フロンティア校や市内小学校，校区中学校に配布

P T A総会や開かれた学校づくり委員会でフロンティア校の取り組みについて報告し，理解を求める

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校
【学校規模】	6学級以下 13～18学級 25～15学級以上	7～12学級 19～24学級
【指導体制】	少人数指導 その他	T・Tによる指導
【研究教科】	国語 生活 体育	社会 音楽 その他(生活・総合 算数 図画工作 理科 家庭 単元づくり カリキュラム)
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】	有	無